

第3回キャンパスおだわら運営委員会 会議概要

日 時	平成26年8月27日（水）午後2時から4時まで		
場 所	小田原市役所 601会議室		
委員長	齊藤 ゆか	出席	学識経験者
副委員長	瀬戸 充	出席	生涯学習の向上に資する活動を行う者
委員	金澤 久美子	出席	学識経験者
	左京 泰明	出席	
	有賀 かおる	出席	生涯学習の向上に資する活動を行う者
	安藤 恵	欠席	
	岩屋 泰彦	出席	
	与那嶺 信重	出席	
	石井 悦子	欠席	公募市民
	永田 圭志	出席	
	立花 ますみ	欠席	教育委員会が必要と認める者
事務局	(文化部) 諸星部長、安藤副部長 (生涯学習課) 友部課長、大木担当副課長、村田係長、 佐久間主任、田中主事		
キャンパスおだわら事務局	奥村理事長、落合会員		
キャンパスおだわら人材バンク実行委員会	太田委員長、早野副委員長		
傍聴者	無し		

※委員は選出区分別五十音順(委員長・副委員長除く)

1. 開会

安藤副部長より、次第及び資料1の差し替えについて報告。

2. 議題

(1) 開設講座について

キャンパスおだわら事務局(以下「C事務局」) 資料1に基づいて説明させていただく。
説明に先立ち、資料に一部誤りがあったため、差し替えさせていただいた。
差し替え後の資料をご覧いただきたい。
前回の運営委員会後に開催された8月以降の講座は104講座であった。細かい説明は省略させていただく。
ジャンル別に分類すると、音楽・演劇が8講座8%、文学・歴史が16講座16%、語学・国際交流が5講座5%、美術・手工芸が8講座8%、スポーツ・アウトドア・健康が15講座15%、福祉活動・社会活動が18講座18%、その他趣味・娯楽が34講座34%である。なお、【お】と付いている講座は小田原ならではの講座であり、11講座11%、【子】と付いている講座は子供も参加できる講座であり、26講座26%である。
これらの講座は、キャンパスおだわら事務局で仮認定した講座であり、もう一度委員の皆様にご確認いただきたい。

委員長 ただ今の説明に対して、何か質問や意見はあるか。

有賀委員 資料を差し替えた理由は何か。

C事務局 事前に送付した資料に一部誤りがあったためである。例えばNo.3の開催月が10月からとなっていたが、11月からの誤りであった。その他、講座名の漢字を間違えた箇所がいくつかあったので、差し替えさせていただいた。

委員長 運営側として、夏休みの講座の状況はどうだったか。

人材バンク実行委員長(以下「実行委員長」)

8月第二週の金・土に「夏休みおもしろ学校」という小・中学生を対象とした講座とスタンプラリーのミニ講座を開催した。例年は8月の末に開催していたが、今年は夏休みの宿題を売りにしようということで、8月の第二週目に開催日を変更した。昨年は受講数が340名程だったが、今年は600名弱まで増やすことができた。時期的な戦略が功を奏して多くのかたに参加していただけた。成功の部類に入るのではないかと思っている。

委員長 8月下旬から上旬に日付をずらして、夏休みの宿題にかけて講座を開催して成功したという事例を紹介いただいた。小田原に関する講座で何か成果が上がっているものはあるか。

C事務局 小田原に関する講座は関心が高く、参加率や満足度も高い。逆にそれ以外の講座の関心度がどうかという課題はある。

委員長 運営委員会の任期も後半に差しかかってくる。具体的な講座の中身や受講者の声に耳を傾け、どのような講座が地域にとっても良いのかなど、考えていかなければならない点であるので、これからもお話を伺えればと思う。それでは、講座に関しては認定とさせていただく。

(2) キャンパスおだわらのあり方について

友部課長 それでは、議題の「(2) キャンパスおだわらのあり方について」説明する。最初に、キャンパスおだわらの現状評価の調査のうち、先般実施したテーマ2「キャンパスおだわらの企画・実施運営に求められる人材とは」の結果について説明する。

資料2をご覧ください。

この調査には、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会の会員19名、きらめき☆おだわら塾を運営する会の会員4名、行政の職員6名の、計29名からの回答をいただいている。市民団体の一部のかたからは、回答に苦慮したり、回答に抵抗のある項目もあったとの意見があった。

右側の数値は、回答者全体の平均点を表したものであり、中分類毎の平均点も表記している。評価基準としては、5が「十分できている」、4が「かなりできている」、3が「まあまあできている」、2が「あまりできていない」、1が「まったくできていない」となっている。

本調査の結果については、運営に関わる者の現状分析の資料として、今後の参考にしていただくとともに、小分類の項目の一部を「目指す姿」に対応する指標に追加させていただいた。

資料3をご覧ください。

これは、前回の運営委員会でご協議いただいた、キャンパスおだわらの「目指す姿」と、それに対応する「指標」を一覧にしたものである。この中の「目指す姿」1-(3)-②「生涯学習が、市民の手により円滑に推進されている」の指標（一番右の欄になるが）に、今回のテーマ2の調査の中から4-1の「キャンパスおだわらの目的を実現できる」、4-2の「キャンパスおだわら運営することを持続することができる」、4-4の「計画的（短期、中期、長期）に運営できる」を追加した。

次に、資料4をご覧ください。

これは、「目指す姿」に対応した指標を事業毎に表記したものであるが、前回提示したものに、平成25年度の実績を把握できる限り追記するとともに、目標値について事務局案を記載した。

一番右の欄に最終目標を記載しているが、最終目標を定めることが困難と思われる指標については、まず1割の改善を目指そう、ということで、その左に平成28年度末（市総合計画の前期基本計画終了）時点の目標として、平成25年度の実績値から一律10%の改善をした値とさせていただいた。

最終目標を定めた指標については、講座定員充足率については100%に、満足度については5点満点中の5点、または100%に、参画者比率については、さまざまな世代が参画している状態が理想であるとの考えと、実際には退職者世代のかたに協力をいただく機会が多いという現実があるので、それらを踏まえ、なるべく平均になるというような値にした。

まずはこのような目標値で各事業を進めていきたいと考えている。

説明は以上である。

委員長 ただ今の説明に対して、何か質問や意見はあるか。資料3の説明は繰り返しになるが、一番左側が小田原市の総合計画における生涯学習に関する内容となっている。これに対して具体的な目標や事業内容が見える化できていないという議論から、クドバスと書かれている部分であるが、前年度、ワークショップの中で具体的な項目を挙げた。その小項目の中で施策に活用できる部分を抽出して、キャンパスおだわらの目指す姿に反映させたものである。まずこの部分を前回議論したということをご確認いただきたい。

今回は資料2の調査結果について、この調査で何ができている、できていないということを確認するよりも、目指す姿と事業の関係を具体的にしていくということが大きな目的であるので、資料3に調査項目の一部を反映させた点について、もう少し追加できる項目があるのではないかなど、意見があればいただきたい。

岩屋委員 ここまで来ると、この資料に対してどうこう意見を言うよりも、いかにこれからこの資料を役立てていくかを考えていく方が良い。

与那嶺委員 特にこれといった課題は見つからない。

永田委員 これをどう活用していくかが課題ではないかと思う。

有賀委員 資料3の網かけの部分には何か意味があるのか。

- 友部課長 後ほど説明させていただく。
- 金澤委員 前回出席していないので分からない点もあるが、「郷土についての学びの推進」などは分かりやすく取り組みやすいと思う。逆に、「学んだ成果を生かす環境づくり」などは難しいテーマであると思う。指標を来年度の事業に具体的に生かしていければ良いと思う。
- 副委員長 緊急度・重要度の点数の割に、実施の点数が低いのが気になる。
- 委員長 緊急度・重要度は資料3では10点満点で表記しているが、実施は5点満点である。緊急度・重要度の点数を2で割った方が比較がしやすいと思われる。郷土についての学びの推進の欄にクドバスの項目が一つも無く、バランスが悪いように見受けられるが、いかがか。
- 大木副課長 クドバスのテーマ1の調査では、この部分を取り上げた項目が無かったため空欄となっている。
- 友部課長 クドバスの調査項目5-2「小田原の特徴を出した企画・運営をする」などは「郷土についての学びの推進」にも関連していると思われる。より関わりの強い方に寄せている部分もある。
- 委員長 バランスが大事だと思うので、若干クドバスの項目を移動させる必要が出てくる可能性がある。テーマ1の中でも、郷土については議論されていたような気がする。
具体的な議論を進めた方が良いという意見があったので、先に進めていきたいと思う。「②市民ニーズの把握について」説明をお願いします。
- 友部課長 それでは「②市民ニーズの把握について」説明させていただく。
資料3にお戻りいただきたい。
「目指す姿」を実現するための具体的な事業展開について説明する。
資料に網掛けの表示があるが、キャンパスおだわらの現状の課題のうち、重点項目を抽出し、具体的な事業展開を図りたいと考えている。抽出にあたっては、クドバス調査での緊急性や重要性、運営委員会の中で多く出た意見、また社会教育委員会議での自分時間手帖等の情報発信についての議論等を考慮し、「市民ニーズの把握」「情報発信」「キャンパスおだわらの円滑な運営」「まちづくりに生かす人材の育成」の4つの項目を重点項目とさせていただいた。
さらに本日は、この中から、「市民ニーズの把握」と「情報発信」の2点につ

いてご協議いただき、残りの2点については、次回以降にご協議いただきたいと考えている。

続いて、資料5-1をご覧ください。

こちらは、キャンパスおだわらにおける市民ニーズの把握について、市民を講座参加者と講座不参加者の2つの属性に分類し、それぞれのニーズ把握の現状と課題、改善案を表にしたものである。

まず、講座参加者については、現状として、キャンパスおだわらの認定講座の一部において、講座受講後にアンケートを実施することでニーズ把握を行っている。

課題としては、認定講座以外の講座が把握できていないことから、市内全体の状況が把握できていないこと、また、アンケート項目が講座ごとに異なっていることから、統一的な分析が困難であることが挙げられる。

改善案としては、把握講座数を増やすことで全体の把握に努めるとともに、把握し得るすべての講座にかかる共通のアンケート項目を定めるものである。また、その集計結果について講座関係者と情報共有を図ることで、市民ニーズの把握を進めていきたいと考えている。

次に、講座不参加者のニーズの把握については、相談窓口等における学習相談が唯一の機会となっているのが現状である。このため、課題としては、ニーズ把握方法が受け身の体制であり、積極的なニーズ把握ができていないことが挙げられる。

改善案としては、講座以外の場でアンケートを実施していきたいと考えている。まずはできるところから実施し、具体的には、小田原市の職員や、今後予定されているフェスティバル等のイベント参加者へのアンケート、講座の参加が少ない属性に絞ったアンケートの実施を考えている。

資料5-2は、講座参加者へ実施するアンケートの共通項目についての素案である。

資料5-3は、講座不参加者も対象としたアンケートの素案である。

これらについては、あくまで素案・たたき台の段階であるので、これから市民団体と事務局とで項目等を精査する。

なお、参考資料と書かれたA4横の表があるが、平成25年度の行政講座における、満足度等の集計結果である。完全に統一はとれていないので、空欄になっている所がある。

本日は、資料5-1の市民ニーズ把握の改善案について、この方向で良いか議論いただきたい。

説明は以上である。

委員長

この市民ニーズの把握については、時間をかけて議論したい。資料5-3のアンケートは既にどこかで実施しているのか。

- 友部課長 実施していない。
- 委員長 資料５－２のアンケートは、講座参加者に対して共通で実施したいものであり、資料５－３のアンケートは講座に参加している、していないに関係無くすべてのかたに調査してみたいということで良いか。
- 友部課長 そのとおりである。特に資料５－３のアンケートについては、講座に参加していない人の意識調査的な側面で考えている。
- 委員長 キャンパスおだわら運営委員会ではなく、社会教育委員会議や公民館運営審議会などでも学習に関するアンケート調査・研究というのは今まで実施したことはあるのか。
- 大木副課長 かなり前には実施していたが、ここ１０年程は実施していない。
- 委員長 そのような場で調査をしようという話にはなっていないのか。
- 大木副課長 具体的な話は出ていない。
- 委員長 キャンパスおだわらの講座に関することよりも、むしろ学習全体に関することでもあると思う。そういう調査・研究をしているところもある。
- 大木副課長 総合計画策定の段階で市民の方々がワークショップを実施した。その中のテーマの一つとして生涯学習が取り上げられ、意見を聞いたということはあるが、講座など、内容を絞った形では実施していない。
- 委員長 社会教育委員会議でも公民館運営審議会でもこれまでの１０年間に学習についての調査研究をしたものが無いということなので、キャンパスおだわら運営委員会として実施するという方向性で議論したいということが前提となっている。その理由というのは、クドバスのテーマ１において、キャンパスおだわらのあり方を研究した際に、市民ニーズの把握という項目が上位に挙がっており、市民ニーズの把握ができていないのではないかということから、今回市民ニーズの把握をするという方向で議論が進んでいる。アンケートを実施する際には、何よりも目的が大事になる。目的と答えやすさなど、調査研究をする際のポイントがあると思うが、この点で事務局として何かあるか。

大木副課長 資料5-2のアンケートについては共通の様式であるので、属性やニーズ把握、満足度など、共通で把握したい項目となっている。個別に必要とする項目については除外している。

委員長 ここで把握する満足度とは、全体を通じた満足度ということになるのか。

大木副課長 そのとおりである。

委員長 調査結果が300や500集まってくると、種類によっても満足度は変わってくると思う。このあたりの把握というのはどう考えているのか。

大木副課長 今回提示させていただいたのは、アンケートの素案であり、今後この集計結果をどう使っていくかという議論はまた出てくると思う。それは議論が出てきた時点で考えていきたい。ジャンルや内容で分けて分析する必要がある。

委員長 キャンパスおだわらの講座に参加している人の現状が把握できていないので、どんな方々がどのような目的で参加して、その講座は満足したのかということ把握し、次の講座の企画に生かすというかなり大きな目的になってくる。

金澤委員 満足度の把握という項目が、一番市民ニーズが拾えているかどうかということになると思う。

私は何回か行政講座の子育て講座で講師を担当した。もし自分が行った講座でこのアンケートを書いてもらったとすると、満足度は5段階の評価でしか分からず、具体的にどう満足だったのか、不満足だったのか、実態が把握できない。講師側としては、テーマがあり、そのテーマをどう伝えていくかという目標がある。そのテーマでありニーズに合致した人が参加してくるはずである。受けてみて実際どうだったかというのは、満足不満足だけではなく、何を期待してこの講座を受講したか、結果的にどうだったかを自由記述の形で書いてもらった方が良いと思っている。私は行政が取っているアンケートとは別にそのような内容を聞いている。大したことはないと思って入れた内容が受講者にとってヒットしていたり、講師側が力を入れたつもりが、あまり受講者に響いていなかったりと、具体的なことを聞いていかないと、具体的なニーズ把握はできない。

自由記述は受講者にとって負担になるので、数字を選ばせる方がやりやすいとは思いますが、少し自由記述でどういことを知りたいと思って参加したか、そしてそれはどれくらい満足したか。期待していたが得られなかったことは何か、などを取り入れた方が良い。

委員長 これまでのアンケートで感想などを書かせる項目はあったのか。

C事務局 1,300余りの認定講座すべてにアンケートを実施することはできないが、私たちのNPO法人生涯学習推進員の会が実施している講座については共通的にアンケートを実施している。金澤委員が言われる自由記述に重点を置いている。講座を受講するかたは、その前段階として明確な目的を持って参加されている。その意味では、アンケートでのニーズ把握は非常に難しい。実際には個々の講座でもアンケートを実施していると思われるが、捕捉できる講座には限界があり、市民講座だけでも500～600の講座があるが、そのすべてを把握はできていない。今回は講座企画者にアンケートを含めた提案をして、ニーズの把握を検討していきたいということを行行政と話している段階である。

岩屋委員 ニーズの把握ということだが、講座に参加している人は、それなりに自分で講座があることを調べて参加しているので、その人のニーズには応えていることになる。むしろこれから新たなニーズを掘り起こすとすると、講座参加者からの掘り起しは難しいのではないかと感じた。

例えば満足度という部分は、受講者に聞いて、さらにその講座が今後も続くとした場合、その講座の質の向上させるために必要な情報を得ることが目的である。それ以外の部分はその講座をどのように知ったのかなど、ニーズ以外の情報源の提供方法に関するものであり、2種類の目的があると思われる。講座が今後も続く場合は、先程金澤委員も言われていたとおり、講師は次の講座をより良くするために、様々な具体的情報が欲しいと考える。同時に、参加者から新たなニーズの掘り起しの情報も得ていくことになる。ニーズ把握となると、講座参加者は自分で講座を探して受講するはずであり、そこから新たなニーズを得るのは難しい。あるとしたら、今後どのような講座を受けてみたいかといった内容になる。

明確に講座の質を向上させるものと今後役に立つ情報を集めるものとに分けた方が良い。会社では強制的に講座などを受けさせられるが、それは定期的には実施しなければならないものである。質の向上に関するアンケートになる。今回のケースでは、2つの目的があると思う。

ニーズの把握となると、別の設問や講座不参加者に対してのニーズ把握に力を入れるべきである。

委員長 内容の柱として、満足度と情報のアクセスといったところに焦点を当てるべきといったことであった。

また、質を向上させるといった目的については、講座の内容としての質を具体化することで講師にとっても役に立つとの意見があった。

永田委員 まちづくりに貢献したいと思った人の率の把握とあるが、その後どのような講座があったら良いかといった内容があった方が良いと思う。

有賀委員 例えば連続講座であればアンケートは最後に取ると思う。私は7月にキャンパスおだわらの行政講座「大人のサイエンス塾」の初回講師をやらせてもらった。学習課題が、「子供の心をつかむ」ということで講座受講後に科学工作の講師やサマースクールで理科の実験をするなど、スクールボランティアとして活躍してもらえることを目的とした連続講座である。しかし初回からスクールボランティアの話であったため、受講者からは科学を学びに来ているのにといい思いもあり、満足されていない人もいたと思われる。しかし、最終的に講座を終えた時に、学んだ事を小学校などで活かしたいといった気持ちを持ってもらえれば、満足されたことになると思う。自分としてはスクールボランティアの周知という点では満足してもらったと思うが、連続講座では最終的な満足度が重要になると思う。

左京委員 市民の学習ニーズ把握の仕方の前に、市民とはいったい誰なのか、どのような人達をターゲットにするのかということを考える必要がある。ニーズは人によって千差万別であり、調査の仕方もどのような人に対して実施するかにより方法が異なってくるためである。

例えば千代田図書館は夜遅くまで開館しており、非常に夜間の利用が賑わっている。なぜそのような施策を打ったかという、そこにはニーズの把握ということがあり、夜遅くまで開館して欲しいというニーズがあったからである。これは誰のニーズかという、千代田区に勤めている会社員である。つまり、図書館として千代田区で働いているかたを重要なターゲットとして捉えたということである。その方々の、従来の夕方までではなく、夜遅くまで開館して欲しいというニーズを掴んだということである。そもそも小田原市としてどのような人達を重要なターゲットとしているのかを決めるべきではないか。

資料3のクドバスの項目にもターゲットに合わせた日時・場所を選ぶ、ターゲットに合わせた情報発信方法を選ぶなど、ターゲットという言葉が出てくるが、そもそもこのターゲットとはどのような人達なのかを常に考えながら進めた方が良い。専業主婦や会社員、大学生など、ターゲットによって当然ニーズも異なり、把握方法も変わってくる。

委員長 市として今まで全体としての市民調査をしていないとのことだが、講座そのものの把握という意味で、受講者の層がどのようなものであるかを掴みたいということがまずあると思う。それ以外の部分で何かターゲットはあるのか。

大木副課長 資料5-1の講座不参加者のニーズ把握における改善案のところでは若干示さ
せていただいているが、現時点では講座参加者の少ない属性をターゲットに
していこうと考えている。この後議論していただく予定の情報発信にも関係
してくるが、誰に向けてということを含めながら、検討していきたい。

委員長 調査が現在2種類考えられており、仮に1点目を調査1とすると、この調査
1は講座参加者の層を掴みたいという目的があり、その層を掴み、その人た
ちがこの講座に対して満足と考えているのか、どうアクセスしてきて、今後
どうしたいのかを把握できる限り聞きたいという趣旨である。一般論として
講座に参加する人は男性でいえば60歳以上、女性でいえば仕事を持ってい
ない女性の参加が多いという傾向が全体として出ている。夏休みでは子供が
若干増えてくる。生涯学習の悩みとしては、講座不参加者の層というのが約
8割いるが、その8割の方々の現状を知ることは簡単ではない。講座不参加
者のニーズ調査を目的としたものが調査2（資料5-3）ということになる
と思うが、取り急ぎ調査1（資料5-2）について先に議論を進めたい。
調査1の内容について左京委員何か意見はあるか。

左京委員 あえて付け加えるとすると、この講座を選んだ理由は何かという設問かと思
われる。

委員長 先程岩屋委員からは、調査1はニーズの把握を主目的にしない方が良いので
はないかとの意見があったがいかがか。講座参加者にはすでにニーズがある
ので、そこを重視するよりも、満足度に焦点化した方が良いのではとのこと
であった。

与那嶺委員 実際に講座が開講されて、その参加者にアンケートを取るということは、そ
の参加者はニーズに合致しているから参加していると思われる。そうすると、
その時点で満足度は高いはずである。逆に参加が少ない講座において、この
講座を選んだ理由と内容を分析することでニーズが掴められると思われる。

委員長 調査2で聞いていることは、世論調査等で良く実施されている内容であり、
結果もある程度見えている。より具体的なニーズ把握が必要であると思われ
る。

副委員長 満足度のことであるが、1か2か3に○を付けろという勢いで付けること
になるが、やはりどこが良かったのか、悪かったのかを把握するため、具体
的な要望欄があった方が良いと思う。

委員長 最近、成田市で講演会を運営してみようという講座を担当した。その時に運営する側と受講する側と相互に評価しなければならないという話をした。全部で6つの評価項目があり、学習環境・運営スタッフとしてどうか、研究プログラムとしてどうか、講師の熱意・態度、講師の教え方・指導方法、学習者の態度・姿勢、学習者の学習成果が得られたかどうかである。評価するのは学習者自身に評価してもらう部分とスタッフが評価する部分、講師としての満足度という3つの観点から評価しなければならないという話をした。何をもちいて満足とするのかという部分を具体的にした方がこれからの改善点につながると思う。それに加えて、ニーズをどのように聞くかということになる。このアンケートはA4で1枚程度、5分ほどでできる形が限界だと思うので、満足度をより具体的にしていく方向で考えたらどうか。

有賀委員 例えば、満足度について先程委員長が話した6項目を聞くとすると、満足度もそれぞれ種類が分かれるということか。

委員長 満足度というよりも、満足度をより具体的にしたものという捉え方である。

左京委員 ニーズの把握という言葉が今の議論の中で枝分かれしている気がする。私は、ニーズ把握とは、なぜあなたはこの講座に来たのかというそもそもの動機だと思って話をしていたが、今の話は、来られたかたが受講後に元々あったニーズ、課題がどう満たされたかという、受講後の話になっている。どちらかという、今回の目指す姿の中で重要になっていることは、そもそも着席するまでにどのような動機を持って講座に参加しているかという学習ニーズであると思うが、今アンケート話をしていると、自分自身どちらのニーズの話をしているかが分からなくなっている。

委員長 資料で見ると、ニーズに当てはまる部分が、資料5-2の3つ目の囲んである部分、講座を選んだ理由と、時間帯、情報把握の部分に当たると思う。

左京委員 着席するまでの話で言うと、講座を選んだ理由は何かという部分をインタビュー的に尋ねたり、自由筆記形式にするなどして深掘りする方が良い。例えば今のアンケート案は選ばせる形になっているが、いろいろ掘り下げると、講座に参加した理由が、実は友達が欲しかったからだといった本当のニーズが見えることもある。このような本当のニーズはアンケートで選ばせるだけではなかなか見えてこない。アンケートも必要だが、プラスアルファとして何か行くとすれば、できる限りの範囲で良いので根本的な動機を知る試みをインタビュー等で行うことが効果的であると思う。

岩屋委員 講座に参加した理由を自由記述形式などで深掘りして聞ければ良いのだが、A4で1枚とするのか、2枚、3枚にするのかによって内容が変わってくると思う。A4で1枚だとすると、満足度を優先して聞いた場合でも、詳しく聞けばそれだけで埋まってしまう。今言われたとおり、別の形で実施するのなら良いが、A4で1枚なのかどうか。

私もいろいろなセミナーや講座を受けて、最後にアンケートを書いてくださいと言われるが、もう帰るとなった時に真剣に書くかということ、真剣に書くだけの時間も無く、早く帰れという雰囲気もあるなど、実際に詳しく書いてもらうことはすごく難しい部分がある。このあたりも含めて考える必要がある。内容を盛りだくさんにしても、書いてくれなければ意味が無い。例えば小田原市に1,300の講座があるとすると、いつも同じ事を聞かなくても、たまには内容を変えるなどしながら情報を集めていく方法もあると思う。話は変わるが、今後の情報提供方法として、アンケートの最後にでも今後メールで講座の内容や情報提供をしたい旨を記載し、希望するかたには直接メールを投げていく情報発信の方法もある。いずれにしても、まずA4で1枚という制限があるのかどうかを確認したい。

友部課長 制限は無いが、今言われたとおり分厚ければ良いかということ書いてもらえなければ意味が無い。A4裏表程度が妥当と考えている。この点についてもご議論いただければと思う。

岩屋委員 もし裏表が良いのであれば、表面が満足度関係、裏面がニーズや動機などの情報を集める形にする方が良い。

諸星部長 左京委員の話にあった動機付けの話というのは、アンケートの本質に関わる場所であると思う。アンケートによって我々が何を知りたいのか、知ったことを何に使うかということになるが、動機付けの話はニーズ把握だけの話ではなく、満足度にも繋がりその後の活動にも繋がる。どういう動機でこの講座を選んだかということは、有用な質問であり、答えによってはかなりいろいろな形で使えるものになる。動機付けが何で、それが満たされたかということであればそれが満足度になり、どういう動機付けで参加したかということによって、それが仲間作りであったり、何かの目的に必要なスキルを身につけたいということであれば、その後の活動といったものも見えてくる。市民ニーズの把握という項目がアンケート案にはあるが、実はそこは発展性がありその認識の持ち方という意味で先ほど左京委員は提起されたのかと思う。

左京委員 アンケートの文章をどうするかというよりも、むしろアンケート以外の方法でも、対象が全員でなくても良いと思うが、受講動機の把握はすごく重要な部分である。シブヤ大学の参加者の中にも、講座に直接関わらない動機を持って参加される人がいることを経験している。例えば、職場以外に自分の興味関心を軸にした友達が欲しかった、自分の活動の仲間を探している、若い人と対話することが楽しい、子育て中の母親が唯一自分の時間として持てる場所として活用するなどの理由がある。

このような動機は、必ずしも講座の中身とは関連していないが、重要なニーズであると思われる。仮に講座の参加者同士の繋がりを重要と考えた場合、それをどう生かしていくかとなると、講座の最初にグループ毎に自己紹介や対話の時間を設けるなどによって、その講座に参加した人がその後どうやって参加者同士の繋がりをもっていくか、友達を作っていくかということに工夫ができる。それが満足度にも繋がってくる。

確かに岩屋委員が言われるとおり、それらのことをアンケート1枚だけで聞いていくことは困難であるので、センスを持って参加者を観察すること、そしてできる限りの範囲で本当の動機などを聞いていくべきである。

委員長 もし表裏2ページ分の記載が可能であるならば、提案があったように、講座そのものに関する満足度と、講座にアクセスするまでの思いを語ってもらうことの2つの要素が必要であるといったことがある。今挙げてもらっている項目は11項目になるが、記述の項目を増やした方が良いという意見があった。私も講師をする場合に、全員になぜこの講座を受講しましたかという内容を、マイクを持って聞いて回ることがある。シニア対象の講座が多いのだが、ほとんどのかたが、仲間が欲しい、誰かと喋りたい、一つでも役に立つことをしたい、暇つぶしなどいろいろな動機で参加している。そのあたりを工夫して聞くことと、思いとして書いてもらい活用することを考えた方が良い。

講座不参加者を対象としたアンケートについてまだ議論がなされていないが、この点はいかがか。内容を事務局から少し説明願いたい。

大木副課長 アンケートについてはまだ素案の段階であり参考程度に考えている。今回議論していただきたいことは方向性の部分であり、具体的内容についてはまだ思いを語る段階まで至っていない。

委員長 それでは、まず講座参加者からニーズを把握することを先行して内容を詰めていきたい。不参加者に対してどうするかというについては、方向性と対象をどうするかについて議論することとする。

講座不参加者については、そもそも誰のニーズを把握したいかということに

尽きると思う。把握したい対象が講座不参加者であるとの事務局からの話があったが。

岩屋委員 講座不参加者という表現でいった場合、講座は知っているが参加しないという人もいれば、生涯学習そのものを知らないという人もいると思う。この場合の講座不参加者はどちらのことを言うのか。

友部課長 両方である。

岩屋委員 そうなるとだいぶ広い話になる。

友部委員 このアンケートの取り方で、あまねく意見を集約できるのかということについては、まだアンケート自体が叩き台の段階であるので、不参加者に対してどうすれば心の中の意見をもらえるのかについては、難しい問題である。

委員長 世論調査では、講座に参加しない理由は、忙しいから、時間に合わないから、興味が無いからという意見がほとんどである。
どういう層を掘り起こしたいのかということにもよると思う。

金澤委員 アンケートは紙ベースで書くイメージがあるが、インターネットを使って簡単な市民チェック用のアンケートがあるので協力して欲しいといった形で簡単な項目をクリックしてもらうという方法もあり、講座についてのアイデアを募集して面白い発想が出る場合もある。小田原市の生涯学習を市民の厳しい目でチェックしてもらいたいという趣旨でアンケートをお願いすることで、チェックしてやろうじゃないかと思わせる仕掛けを用意する。そして、集計をしっかりと行い、結果を公表する仕組みがあると、多少なりとも関心がある人は協力してもらえるかもしれない。
また、アンケートは通常講座の最後に取りすが、事後にアンケートを取るとうんざりする受講者も出てくる。特に自由記述が多いと、1枚くらいはなんとかなくても、だんだん面倒になる。講座の最初に、どんなことを期待して参加したかという内容を書いてもらう方法もあり、それにより講座に参加するに至るまでのニーズが把握できる側面がある。アンケートを事後だけでなく事前に取りすることを考えても良いと思う。

委員長 ネット調査については、ネット調査の傾向があることが研究で出されている。どのような人が回答しているかということについては、主に30代、40代の独身女性が回答する傾向があるようだ。講座に参加しない30代、40代独身女性の意見を聞けるというメリットはあると思う。

友部課長 ネット調査については、そもそも生涯学習に興味の無い人はホームページにアクセスしないと思われる。そういう人達をどう答えさせるかという手段が難しい。例えば強制的に市職員にアンケートを取る、イベントに来た人に答えてもらうなどの方法をとることを考えている。

岩屋委員 イベント時に、小田原市の生涯学習活動をPRする場は無いか。イベント時に生涯学習のブースを設けてその場でアンケートを取るなどのやり方も一つあると思う。私も神奈川県製薬協会のイベントで、その場でアンケートを取ったりしている。ただし、何かしら貰えるとなると人が集まりアンケートに答えてもらえるが、無くなったとたんに誰もアンケートに答えてくれないという事態になる。果たしてどの程度このアンケートが役立つかわからないが、やはりPRの場としてはそのような場も利用できると良い。

大木副課長 全市民が対象となるとかなり広い範囲になってしまうので、できるところからということを含めて、改善案にも書かせていただいたが、各種イベントなどでも積極的にアンケートを取っていききたい。このようなアンケートは無作為抽出で大規模で行う方法もあるが、予算もかかることから、できるところから試験的に実施させていただきたい。アンケートの内容についても、イベントで配るものと市職員に実施するものとは変わってくる可能性もある。このアンケート案はあくまで一例であり行政側の想定である。

与那嶺委員 このアンケートは継続的に生涯学習活動を行っている者に行うのか。例えば設問の中に、現在行っている生涯学習活動とあるが、過去に行っていたという観点はどうなのか。

大木副課長 同じ人に継続的に実施することは想定していない。

委員長 アンケートの設問では、まず講座を行っているかを聞いた上で、行っている場合はという聞き方になっている。

実行委員長 講座も連続講座や1日講座もある。人材バンクの企画講座の受講後に自主講座という形で継続して学習している人もいる。このような人達からは、重要な意見が出るのではないかと思う。アンケートだけではなく、直接話を聞くことも必要である。

委員長 ヒアリングも必要だが、まずは記述式で行うこととする。講座不参加者に対しての議論については、もう一度議論したいと思う。それでは議題③に移ら

せていただく。「③情報発信について」説明をお願いする。

友部課長

それでは、情報発信の事業展開について説明する。

資料6-1をご覧ください。

これは、キャンパスおだわらにおける学習情報提供の現状を一覧表にしたものである。それぞれの情報発信媒体について、編集主体、目的、主な対象のほか、一番右に、担い手（編集主体）である市民団体の現在の考え方を記載した。

資料6-2をご覧ください。

これは、情報発信媒体の内、キャンパスおだわら情報誌及び自分時間手帖の配布先の詳細を記載したものである。キャンパスおだわらホームページ及びPLANETかながわの内容については、私の説明の後に、キャンパスおだわら事務局の奥村理事長から、実際の画面をご覧くださいながら説明させてもらう。

資料6-3をご覧ください。

これは、資料3で示した目指す姿から見る情報発信の現状分析と今後の方向性の案を示したものである。なお、目指す姿は、3項目あるが、このうち、一つ目の「さまざまな学習情報が収集、活用されている」については、二つ目と三つ目の目指す姿を実現することで達成するものと考えているので、ここではこの2点を取り上げている。

まず、情報発信に関する目指す姿の一つである①だが、「学習意欲を喚起する情報を発信している」という観点から現状を分析したものが上段の図で、情報発信の対象を、年齢層と学習意欲の高低で領域分けし、各情報発信媒体がどの領域を主な対象としているかを図示したものである。この図から、現在の情報発信が主に学習意欲の高い人向けに行われており、学習意欲が低い人を対象とした情報発信がなされていないことが読み取れるかと思う。

次に、下段をご覧ください。これは、「必要な情報が必要な所に届いている」という目指す姿の観点から、現在の情報発信媒体がどのような種類の情報をどのような利用目的の人に発信しているかを分析したものである。

それぞれの媒体を帯で示し、どのような情報を提供しているかはお示しできているが、どのような利用目的の人に向けられて発信されているのかという分類ができない状況にある。したがって、利用目的と提供情報の関係が不明瞭であることを示している。

裏面をご覧ください。上段の「情報発信の方向性」については、これらの分析結果を踏まえ、目指す姿を実現するための今後の方向性と具体的手法例について、事務局で考えられるものをいくつか挙げ、まとめたものである。

目指す姿「学習意欲を喚起する情報を発信している」を実現するための方向性としては、学習意欲が低い人も情報提供の対象とすること、興味の無い人

も目を引き、手に取る工夫をするなどが考えられ、その手法例として、インパクトのある表紙づくりなどを実施すべきと考えている。

次に、目指す姿「必要な情報が必要な所に届いている」を実現するための方向性としては、まず先程の現状分析を鑑み利用目的と提供情報の関係を明確にすることや、目的から必要な情報が探せるように、情報（紙面）の構成を行うなどが挙げられる。下に「・・・」と表記しているが、それ以外にも方向性が挙げられると思うので、ご意見をいただきたいと思う。

なお、このうちの、目指す姿「必要な情報が必要なところに届いている」に向けた方向性の一つ目「利用目的と提供情報の関係を明確にする」ことについて、具体的に関係性を考えたのが下段の表である。先ほどの現状分析②の「利用目的と提供情報の関係が不明瞭である」ことを改善するため、既存の媒体にとらわれず、誰のために、どのような情報を提供すべきか、その関係性を改めて見直したものである。利用目的別に必要な情報を○と△で表示し、講座毎の更新頻度を追加した。

これに、さらに、情報提供のタイミングや、配布の方法、学習意欲のないかたへの発信内容は何か、という視点を入れて情報発信のあるべき方向を定めた上で資料6-1にある情報媒体のあり方を見直していきたいと考えている。本日は、主に、情報発信の方向性について、お示しした案がこれで良いかご協議いただくとともに、目指す姿を実現するために必要な方向性や具体的手法の案があれば、ご意見をいただきたいと思うので、よろしく願います。

奥村理事長 （プロジェクターの画面を使い、キャンパスおだわらホームページ及び
PLANETかながわの内容について説明)

委員長 残り時間がわずかとなり、方向性を定めるまでに至らない部分もあるが、情報発信の現状と方向性について説明があったが、いかがか。

岩屋委員 今回情報発信が議題ということで、いろいろとキャンパスおだわらホームページも触ってみたが、まずホームページ上から講座の申し込みができる手間が省けて良いと思った。次に、会員登録のような形で、一度登録すれば、氏名等の情報をその都度入力しなくても講座に申し込めるようになると良い。また、キャンパスおだわらのホームページでは、学習情報のページに講座情報が掲載されており、人材バンクのページにも人材バンクの講座が載っている。もしかしたらお互いがリンクしているのかもしれないが、講座に参加して欲しいのであれば、講座の部分を前面に出していく方が良いと思われる。終了した講座は削除し、見る情報が少ない方が良い。
後は、キャンパスおだわら運営委員会に参加した時から感じていたことだが、キャンパスといえば大学、大学であれば学生証のようなもので参加者を登録

し、その番号で申し込みなどいろいろなことができ、登録者にメールでお知らせがいくなどの情報発信の仕組みができれば面白い。そこでその登録者はどのようなことに興味があるのかなどを分析し、それに対応した情報を提供するなど、いろいろ考えられる。

左京委員 いろいろあるが、まず情報発信の方向性のそもそもの所で、「学習意欲の低い人も情報提供の対象とする」、「興味のない人も目を引き、手に取る工夫をする」とある。行政として良くありがちなスタンス、ビジネスでは絶対に打ち出せない方向性である。講座不参加者を中心にみていくとして、学習意欲が高い人もいるかもしれないし、何らかのテーマに興味がある人もいるかもしれない。どちらかという、まずは講座不参加者の割合が市民の中で大きいとすれば、参加する可能性が高い、何らかの動機を持っている人を対象にして発信してから、少しずつ参加意欲の低い人に目を向けていくなど、段階を踏んだ方があるべき姿であると思われる。いきなり一番ハードルの高い人達を主たるターゲットにするのはいかなものかと思う。

やはり、情報発信についてもどのような人達に対して情報発信をしていくのかということを考えないと、コミュニケーションの手法は多様なので、難しい。

委員長 他にも意見があると思うが、時間も無いので、運営委員の皆様も情報発信の媒体を実際に見て、ユーザーの立場から使いやすいかどうかを確認してもらい、予算の関係もあるので大改善は難しいと思うが、改善できるところからという視点で具体的な話を次回以降もう一度させてもらいたいのでよろしくお願いしたい。以上で本日の議題は終了する。

3. その他

- ・次回の運営委員会は平成26年10月8日(水)午後もしくは22日(水)午後開催予定。近日中に日程を確定し案内を発送する。

以上